第7回 北海道林業・木材産業新型コロナウイルス対策に関する連絡会議

【開催日時】 令和3年8月23日（月）
【開催方法】 オンライン会議
【出席者】 11 団体・企業
【主な意見】

【需給状況】

（輸入材の状況）

- 輸入材は 10 月頃から年明けにかけて本格的な高値で入ってくると予想。
- 昨今のアメリカ情勢の記事を見ていると、木材の価格はコロナ前まで下がり、在庫も増えている状況。
- ウッドショックの影響は一時に比べて落ち着いており、完全に落ち着くのは年明け以降と予想。
- 北米での山火事により、特にベイマツの輸入は今後の動向が不透明。

（建築材等）

- 製材の生産状況は、各製材工場のキャパシティの問題が大きいが、フル稼働しているところもあれば、原木不安のため生産調整をしているところもある状況。
- 集成材工場では、カラマツラミナの通常の集荷量を確保できない状況。
- 通常取り扱う乾燥材だけではなく、製材したグリン材を調達して自社乾燥を検討したものの、本州向け梱包材や桟木の好調により、思うように材を調達できない。

（原木）

- 国有林では、請負生産の早期発注や、昨年度生産したが売れ残った材を春先に販売する等、少しでも生産を完了し市場に丸太を供給するように取り組んでいる。
- 国有林の入札状況については、原木不足を反映して、応札枚数が多い地域がある一方、複数の不落が発生している地域もあり、ばらつきがある状況。
- 道有林では、原木の安定供給に向け、販売時期を前倒しして立木販売を実施しているところ。関係者に対し、可能な限り早期伐採搬出についてお願いしている。
- 一般民有林の今年度の出材量は、上期は造林・保育の時期であり例年どおりであったが、下期以降は増加する見込み。
- 製材工場・合板工場からのオファーと出荷量のバランスは未だ取れていない状況。
- 今後は本格的な冬期伐採と各工場の冬に向けた在庫量がどうバランスしていくか気になるところ。
- 合板向けの移出材は前年に比べ増加、前々年比約 90%程度。特にトドマツの移出量は増えている。

【今後の対応方向】

① 原木の安定供給

- 今後の立木販売への要望として、関係者からは搬出期間の延長や安定的供給等の意見が出されている。
- スマート林業の普及も含めて、森林施業全体で人材不足の対策を検討する必要。
- 道産材の安定供給体制は重要だが、将来的にウッドショックの収束と安い輸入材の流入が予想される中、どのように頓挫せずやっていけるかが重要。川上と川下の連携が重要と認識。
- ウッドショックと騒がれている割には、国有林での不落等、立木や素材の購買意欲が少ない印象。北海道が遅れているのか、余裕がないのか理由は不明。

② 道産木材の供給力強化

- 将来を見据えて少しでも付加価値の向上が重要との意識は共有。
- 地産地消は本来のあるべき姿。そのような体制づくりができればベストだと期待。
- 一般的な設備投資をしたところで、本州の大手工場とはあまりにも規模が異なるため、どの程度対抗できるのか疑問。
- 簡単に設備投資に手を出せない状況ではあるが、時間をかけてしまうと道外へ原木の流れができてしまい、後から取り戻すのは困難。
- 常に安い材を求める業者もある一方、一定の価格で安定した材の確保を求める業者もあり、道産材の安定的な需要先として期待できる。
- プレカット工場、工務店に安定して購入してもらう必要。行政の協力も得ながらコンセンサスを得て横の連携を構築していければよい。

【まとめ】

- 新しい安定供給体制の確立には、原木の安定供給と安定した需要先が不可欠。
- 業界全体でタッグを組んで取り組んで行かなければいけない状況。
- 取組を慎重に進める必要があるが、同時にスピード感も必要。引き続き検討を続けていきたい。